

視聴覚教育

NO. 504

発行日

R8. 3. 4

編集・発行

岡崎市 A V L

編集協力

現職研修委員会

学習情報部

これ知ってる！？情報Ⅰ テクノストレス

コンピュータ等を使うことで生じるストレス。意識的にコンピュータに苦手意識をもち、生じる「テクノ不安症」と、パソコンやスマホなどの症状が出る「テクノ依存症」がある。

チームの力

夏山小学校 校長 村田 貴志

歴代最多となる二十七個のメダルを獲得し、チームジャパンのミラノ・コルティナオリンピックが閉幕しました。各競技での日本人選手の活躍は、いずれも胸を熱くするものでしたが、特に「りくりゆうペア」をはじめとするフィギュアスケート日本代表からは、互いへの深い信頼と仲間を支える力強い絆が感じられました。チームとして高め合う姿勢が、一人一人の力を最大限に引き出し、トップアスリートが集まる世界の大舞台で、数多くのメダル獲得につながったのだと実感します。

教育の現場に目を向けてみても、この「チームの力」は大きな成果を生み出します。本年度は、小学一年生学級の電子黒板などの新しい機器が導入されましたが、特に注目すべきは小六・中一の一人一台端末の更新作業です。子供が主体となつて取り組むという、他地区では例を見ない方法で進められました。与えられた端末ではなく、自ら設定しながら使いこなす端末こそ、子供たちに真の情報活用能力を育みやすいのは言うまでもありません。これが実現できたのは、現場の先生方

による子供たちへの丁寧な指導と工夫、学習情報部の組織力、そして教育委員会が描く明確なビジョンや導入事業者による的確なサポートが、チームとして一つに結集したからこそと感じます。

よいチームの条件として「心理的安全性」「共通のビジョン」「役割分担」といったキーワードがよく挙げられます。価値観の多様化が進み、答えのない問いに向き合うことが求められるこれらの社会では、一人で抱えられる課題はますます少なくなることでしょう。互いの違いを認め、心を合わせ、協働しながら乗り越えていく力を、子供たちに育まねばなりません。そのため、人生の先輩である我々大人が、よいチームを創造し、その手本を子供たちに背中ですすことが大切です。

来年度には新しい学習指導要領の答申が出されます。授業で子供たちの情報活用能力を育成する重要性はさらに高まり、情報教育は一層の注目を浴びるようになるでしょう。この大きな転機を力に変えていくため、子供の前に立つ教員、学習情報部、教育委員会がトップアスリートのように知恵と力を結集し、チームとして挑んでいきたい。岡崎には、その力があると確信しています。

Ⅱ視聴覚教育あれこれⅡ

●自作視聴覚教材が完成しました

「おかざき映像教材研究会」が教材を完成させました。今年度は、社会科教材を一本、総合的な学習の教材を一本の計二本制作しました。制作された作品は、教室PCのデスクトップにあるショートカットから視聴できるように、ただいま準備中です。積極的な御活用をお願いします。

●作品・班員の紹介

一班「震災 君ができること」

岩川皓司（竜海中） 酒井雄一（甲山中）
長谷川誉幸（矢作中） 神島 将（秦梨小）
太田尚志（竜海中）

震災への備えは防災グッズを準備することだけではありません。岡崎市の高校生や地域の取り組みとして、能登半島地震を経験した方の話から、何を備えるべきなのかを考えるきっかけとなる作品に仕上げました。小・中学校での学年でも、震災や防災について学ぶ機会にぜひ見てほしいです。

二班「ぶどう農家の新たな挑戦」

山本悠司（竜海中） 忠内亮太（岡崎小）
峯澤泰季（井田小） 佐渡英彰（竜海中）
鈴木広樹（矢東小）

年間七万人もの観光客が訪れる駒立町。戦後から続いているぶどう栽培は時代に合わせて変化しています。農業に携わる人は全国的に減少していますが、本作品ではアイディアや熱意あふれる人が登場し、明るい未来を切り拓こうとしている姿を収めました。本作品をきっかけに、これからの農業について考えてほしいです。



雫の葡萄



実践報告Ⅱ

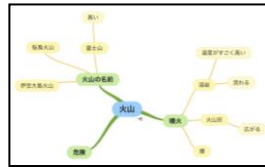
整理して、自然事象から自ら問題を見いだす

新香山中学校 上嶋 千曉

理科の学習においては、イメージや既習事項を整理することで疑問点を見つけ、問題を見いだす力が必要である。そこで、一年生「火をふく大地」の単元の導入で、火山の噴火について知っていることを整理し、自ら問題を見いだす活動を行った。

まず、iPadのアプリ SimpleMind を使用して火山に対するイメージを整理した。生徒Aは「噴火↓溶岩・火山灰↓広がる」のように、火山のイメージと既習事項を関連付けながら整理していた。

さらに、SimpleMind で作成したマインドマップをスクールタクトに添付し、学級全体で共有した。これにより、「火山によって山の形が違うのはなぜか」「火山噴出物にはどんなものがあるのか」など、新たな疑問を見つけることができた。



生徒Aは、共有したマインドマップでは「危険」という言葉からイメージが広がっていないことに気づき、「どんな火山災害があるのか」という疑問を見いだしていた。また、「火山について知っていることは意外と少なかった。噴火によってどんな災害があるのか気になるので、知りたい」と振り返った。生徒Aは、共有したマインドマップから、自ら新たな問題を見いだすことができた。今回の実践を通して、自ら問題を見いだすためには、イメージや既習事項を整理・分析し、情報を再構築する情報活用能力が大切だと実感した。

レッツ・トライ！ ICTⅡ

今回紹介する ICT

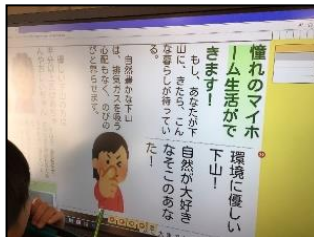
「コラボノート EX」 協働編集と発表機能

本学級は、三・四年生の複式学級である。総合的な学習の時間で地域の課題に目を向けたときに、児童は下山小学区の人口減少に危機感をもった。そして、下山のよさを知ってもらうことが必要だと考えた児童は「下山移住パンフレット」の作成を行った。そのパンフレットを作成する際にコラボノート EX を使用した。

コラボノート EX を使用する利点は、そのシートを全員で同時に編集できるところと発表をサポートする機能が豊富にある点である。複式学級だと、特に文字の入力や編集の時間に個人差がでやすいため、個に応じた役割分担がしやすい。今回も全員がパンフレットの作成に関わることができていた。さらに、コラボノート EX には発表順を決めたり、選択箇所を拡大できたりする機能が備わっている。発表の際も円滑に行うことができた。

校内発表を終えた児童は、「今度はこの発表を学校外のたくさんの人にも聞いてもらいたい」「下山学区に移住する人を増やすために、もっと分かりやすい発表をしたい」と、今後の学習に意欲的であった。コラボノート EX は資料作りから発表の支援までできるツールであると考えた。

(下山小学校 原田康司)



ライブフリーだより

●今年度新しく配備された機材の紹介

◇サンワダイレクト スピーカーセット

出力ワット数 180 W ワイヤレスマイク 2 本
効果範囲 45 m × 45 m 程度の広さをカバー
内臓バッテリー連続使用 10 時間程度可能
Bluetooth でスマートフォンや iPad 等と接続可能

本体サイズ大きめ、持ち手とコロ付き
広い空間でも声が届き、行事や体育館での活動に便利です。ワイヤレスマイク 2 本で使いやすく、Bluetooth で音源再生もスムーズ。本体は大きめですが、持ち手とキャスターで移動も簡単です。



◇JYX スピーカーセット

出力ワット数 15 W ワイヤレスマイク 3 本
内臓バッテリー連続使用 6 時間可能
Bluetooth でスマートフォン、iPad 等と接続可能

軽量で持ち運びやすく、特別教室や行事などで手軽に使えます。ワイヤレスマイク 3 本で複数人の発表にも対応し、Bluetooth で音源再生もスムーズです。

